

令和元年6月4日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02838

研究課題名(和文) Evaluating the effectiveness of humor training in language education

研究課題名(英文) Evaluating the effectiveness of humor training in language education

研究代表者

RUCYNSKI John (RUCYNSKI, John)

岡山大学・全学教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：10512741

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、大学レベルの日本人の英語学習者が英語圏で使用されるユーモアのタイプを理解し、その結果英語のコミュニケーションスキルと異文化理解力を伸ばすことでした。近代の日本社会では比較的まれな2つのタイプのユーモアである風刺ニュースと皮肉に重点を置きました。この2つのタイプのユーモアは英語圏の社会では非常に一般的ですが、日本人の英語学習者にとっては勘違いや混乱をまねく可能性があります。本研究の目的は、日本人の学習者がそういったユーモアを発することが目的ではなく、ユーモアに気づき適切に反応を示すことでした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究には重要な学術的意義や社会的意義があります。多くの研究者が教育にユーモアを取り入れることにポジティブな効果がある事を示してきました。しかし、humor competency trainingの研究は非常に新しくユニークな分野です。英語教育の専門家として、我々は日本人の英語学習者が国際人として自信を持ってスムーズに英語でコミュニケーションを取ることが出来るように努めます。そのためには、学習者は英語の運用能力だけでなく、日常生活におけるユーモアの使われ方など英語圏の文化面への深い理解が必要です。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research was to help university-level Japanese learners of English improve their understanding of the types of humor used in English-speaking countries and consequently improve their English communication skills and cross-cultural understanding. We focused on two particular types of English humor that are relatively rare in modern Japanese society, satirical news and sarcasm. Both of these types of humor are very common in English-speaking societies, so can cause misunderstandings and confusion for Japanese learners of English. The aim of this research was not to help Japanese learners to produce such humor, but more to detect it and respond appropriately. In order to achieve this aim, we developed a range of humor competency training materials. For both the satirical news training and sarcasm training, students in the experimental groups made significant improvements in their ability to detect the respective type of English humor.

研究分野：外国語教育

キーワード：humor training satire satirical news sarcasm humor detection humor competency

1. 研究開始当初の背景

このプロジェクトは、John Rucynski (研究代表者)と難波 彩子(研究分担者)により実施された先行の科学研究(題名: 言語学習と異文化理解におけるユーモアの役割 (2537071805) の結果から着想を得ました。先行の科学研究では2つの重要な発見がありました。ひとつは、多くの場合、日本人の英語学習者は英語圏で使われるユーモアの意味や目的を理解するのに苦労することです。もうひとつは、日本人の学習者は英語のユーモアを学びたいという積極的な姿勢をもち、異文化に対する理解や英語のコミュニケーション能力を磨くため、英語の授業でユーモアを使うことに対して非常にオープンであるということです。1番目のプロジェクトの結果から着想を得て、我々はこの調査を次の段階に進めようと努めました。日本人の英語学習者は、英語圏で使われるユーモアについてもっと学びたいという実に積極的な姿勢があると我々は結論を出したので、次の段階は、英語のユーモアに気づき、理解をして、反応を示す、さらにはユーモアを使えるように学習者の能力を引き上げるために実際の授業で使えるテクニックを研究することでした。

John Rucynski (研究代表者)とCaleb Prichard (研究分担者)は海外留学へ行く多くの学生に対して助言をするのですが、留学をした学生はよく、留学中に見聞きしたユーモアを理解し反応を示すことに壁を感じると言います。壁を感じる学習者の異文化コミュニケーション能力と国際性を高めることがこのプロジェクトへの重要なモチベーションになりました。

多くの研究者(Bell 2007年、Hodson 2014年、Kim & Lantolf 2016年、Wulf 2010年)がhumor competency training (ユーモア能力トレーニング)を英語学習カリキュラムに取り入れることを推奨していますが、いまだこの分野の実証研究は非常に不足しています。研究におけるこのギャップに気づき、このユニークな研究分野の開発に努めました。

2. 研究の目的

この新プロジェクトには、3つの主な目的がありました。

1番目の目的は、実社会の社会的交流の中で、日本人学生が英語のユーモアをどれだけ理解できるかを決定することです。2番目に、日本の大学生がグローバルな文脈での英語のコミュニケーションに備えるために一連のユーモアトレーニングのリソースを開発することです。3番目は、ユーモアトレーニングの有効性を評価することです。

再度申し上げますが、全体的な目標は、言語教育におけるユーモア研究を次のレベルにあげることでした。様々な教育の分野の研究者の多くが、ユーモアによって学生が興味をもち、楽しく、記憶に残るような学習が出来るなどの、教育におけるユーモアの利点について議論をしてきました。しかし、対象の文化のユーモアを理解することが、異文化コミュニケーション能力において重要な点でもあります。

よって、この研究では、日本人の英語学習者が英語のユーモアへの理解と使い方をより知ることが出来るように我々は最良なクラスルーム技法を実証調査しました。この研究結果を国内および海外の英語教師および研究者と共有することを目標にしました。

3. 研究の方法

我々は定性的アプローチと定量的アプローチをおり混ぜこの研究プロジェクトに使用しました。

更に、実験グループや管理グループとともに、事前および事後テストを行う実証研究計画を取り入れました。またマテリアルは、日本および英語圏両方の題材を試しました。

1 番目の主要研究プロジェクトでは、日本人の英語学習者が英語の風刺ニュースに気付き理解できるように重点をおきました。風刺ニュースは、多くの英語圏で一般的なユーモアのフォームです。しかし、近代の日本社会では風刺ニュースが十分にありません。よって風刺ニュースをより理解することで、日本人の学習者の読む能力、デジタルリテラシー、メディアリテラシーおよびクリティカルシンキングを磨くことができます。事前テストでは、学習者が風刺ニュースと事実だが風変わりなニュースを区別する調査を計画しました。日本人の英語学習者とネイティブスピーカーの両方の調査結果が分析されました。humor competency training の構成として、実験グループは風刺ニュースに気付くことが出来るように2時間のトレーニングを受けました。管理グループはトレーニングはありません。事後テストは、両グループに行いました。結果は、次のセクションで説明します。さらに、5つの主題がトータル約200分の定性的フォローアップオーラルインタビューに加えられました。フォローアップインタビューの目的は、このユーモアのフォームに対する参加者の理解や難しさ、評価などより深い反応を収集するためでした。

2 番目の主要研究プロジェクトは、日本人の英語学習者が英語圏における皮肉の使われ方に気付くことに重点をおきました。皮肉は、日本社会では使われることがはるかに少ないもうひとつのユーモアのフォームです。この研究の目的は、皮肉を発することを教えるのではなく、英語話者によってどのようにまたいつ使われるのか気付くことを目的としています。これを理解することで、異文化コミュニケーション能力を上達させ、誤解を防ぐことができます。1番目のプロジェクトと同じ研究計画がこのプロジェクトに使われました。まず最初に、参加者はネイティブスピーカーによる皮肉と誠意のある発言の区別をする事前テストを受けます。形式は、2人のネイティブスピーカーによる一連のビデオロールプレーです。

1 番目のプロジェクトと同様に、実験グループは英語のユーモアに気付くことが出来るように約2時間の humor competency training を受けました。この humor competency training では、韻律的情報や言語的情報、視覚的情報など明確な手がかりを出して皮肉に気付けるようにしました。そして事後テストを実験グループと管理グループに実施しました。この結果も、次のセクションで説明します。

4 . 研究成果

1 番目の研究を分析したところ、実験グループは英語の風刺ニュースに気付く能力を大きく伸ばしたことが示されました。この研究結果は TESOL Journal の記事に掲載され、世界的な規模で広まるでしょう。Humor competency training の研究に加えられる有望な分野です。

2 番目の研究においても、実験グループは英語の皮肉に気付く能力を伸ばしましたが、風刺ニュースの実験結果ほど著しいものではありませんでした。

研究者は、より大きな成果を得るためにトレーニング手順を更に修正する予定です。皮肉トレーニングの結果を研究誌に提出する代わりに、章形式で一冊の本として書き終え、現在研究代表者と研究分担者が編集中です。2020年に出版する予定です。

総じて、研究代表者と研究分担者は尽力しこの研究分野を発達させ研究結果を国内外に広めました。主に3つの方法により広めました。

第1に、英語の風刺ニュース研究の結果が、英語教育の分野で名声のある国際的な研究誌の TESOL Journal に掲載されました。

更に、これまでの研究がユーモア研究において極めて傑出した国際的な研究誌の Humor : International Journal of Humor Research に掲載されました。

第2に、研究代表者と研究分担者は、数多くの国内外の学会で発表を行いました。

国内の学会では、Japan Association of Language Teaching (JALT)に参加しました。更に、TESOL(Teaching English to Speakers of Other Languages) や AAAL(American Association for Applied Linguistics) の名高い語学教育学会など6か国の国際学会で発表を行いました。

学会での発表を通して humor training competency の研究分野への意識を世界的な規模で何百人もの教師や研究者に広げることができました。

第3に、編集本の提案が Leixngton Books に受け入れられました。この本は、humor training competency の研究分野を発展させるものであり、米国、英国、イラン、日本の研究者から助力いただきます。2020年に出版予定です。編集者と貢献者の間で修正が何度も加えられるため、本研究が終わる前に完了することができませんでした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

1. Caleb Prichard & John Rucynski, Jr. Second language learners' ability to detect satirical news and the effect of humor competency training, *TESOL Journal* (peer reviewed), 2018, 10(1), page numbers not assigned yet.
<https://doi.org/10.1002/tesj.366>
2. Peter Neff & John Rucynski. Japanese perceptions of humor in the English language classroom, *International Journal of Humor Research* (peer reviewed), 2017, 30(3), 279-301.
<https://doi.org/10.1515/humor-2016-0066>

〔学会発表〕(計17件)

1. John Rucynski, "New Ways of Teaching with Humor," 2019 TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) Convention, 2019年.
2. John Rucynski & Caleb Prichard, "Incorporating Humor Competence Training into the Language Learning Curriculum," 2019 TESOL Convention, 2019年.
3. Caleb Prichard & John Rucynski, "Training Learners of English to Recognize Verbal Irony," 2019 AAAL (American Association for Applied Linguistics) Convention, 2019年.
4. John Rucynski & Caleb Prichard, "The Efficacy of Humor Competency Training in Second and Foreign Language Teaching," 2019 AAAL Convention, 2019年.
5. John Rucynski, "The Humor Barrier in Foreign Language Acquisition," Multilingual Awareness and Multilingual Practices, 2018年.
6. John Rucynski & Peter Neff, "Cultural Considerations of Implementing Humor into the Language Learning Curriculum," 20th International Congress of Linguists, 2018年.
7. John Rucynski & Caleb Prichard, "Detecting Satirical News: A New Competency for English Language Learners in our Digitalized World," ATEE (Association for Teacher Education in Europe) Annual Conference, 2017年.
8. John Rucynski, "Using Humor to Enhance Language and Culture Instruction," TESOL International Association (online seminar), 2017年.
9. John Rucynski & Caleb Prichard, "Detecting Online Satirical News: New Competency in the Digital World," 15th Asia TEFL International Conference, 2017年.
10. John Rucynski & Caleb Prichard, et al., "New Ways of Teaching with Humor to Enrich Your Classroom," 2017 TESOL Convention, 2017年.
11. John Rucynski & Caleb Prichard, "Fake News or Odd News?: Analyzing Japanese English Speakers' Difficulty in Detecting Satire," 2017 AAAL Convention, 2017年.
12. John Rucynski & Caleb Prichard, et al., Transforming Humor in ELT from Ha-Ha to Aha!, JALT (Japan Association for Language Teaching) 2016 International Convention, 2016年.
13. John Rucynski, Joseph Dias, and Germain Mesureur, "Stereotypes in Humor: From Taboo to Teaching Tool," JALT 2016 International Convention, 2016年.
14. John Rucynski, "Using Satirical News Stories for Increasing Media Literacy," New

York State TESOL 46th Annual Conference, 2016 年.

15. John Rucynski, "Using Memes to Provide Insight into Language, Culture, and Humor," NYS TESOL 46th Annual Conference, 2016 年.

16. John Rucynski & Caleb Prichard, "Training English Language Learners to Comprehend and Respond to Humorous Memes," International Society for Humor Studies Annual Conference, 2016 年.

17. Peter Neff & John Rucynski, "To Joke or not to Joke: Student Reactions to Humor in English Language Classes," ISHS Annual Conference, 2016 年.

〔図書〕(計1件)

1. John Rucynski, Jr., editor. TESOL Press, *New Ways in Teaching with Humor*, 2016, 342 pages (edited book).

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：プリチャード ケイレブ

ローマ字氏名：PRICHARD Caleb

所属研究機関名：岡山大学

部局名：全学教育・学生支援機構

職名：准教授

研究者番号(8桁): 10440306

(2) 研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。